

多摩市立図書館本館再構築基本構想  
(案)

広報公聴原案

作業原稿. 1110

平成28年度

提言 基本構想策定委員会

多摩市教育委員会  
多摩市立図書館

# 未入稿

どなたがかかれるか

昭和48年（1973）開館に始まる多摩市立図書館は、自動車図書館やまぼと号を市内20か所のサービスポイントに巡回させて、全市全域奉仕の方針を明らかにしながら、その図書館システムを成長させました。諏訪、東寺方、豊ヶ丘、関戸、聖ヶ丘、永山、唐木田と順々に生まれた図書館は、本館を頂点とした組織体の下位の分館としてではなく、それぞれの地域の暮らしに向き合った地域図書館であり、それらの連帯の形が多摩市立図書館そのものであったとすることができるでしょう。

平成2年（1990）に「（仮称）多摩市立中央図書館基礎調査」の研究があります。開館17年、理念的な図書館システムの青年期を経て、状況の課題や成長の方向性を考えたときに、全体を力強く支え動かす中枢機能と市民の高まる要求に応える専門性をそなえた中央図書館の必要性が提言されたのです。図書館政策で一步先を行く国内や外国の都市の図書館が、選択して実績を証明している施策の方向性でもありました。

以後、多摩市は具体化の方策を模索し、市民グループも図書館との奉仕協力に加えて研究会や市民的共感づくりに取り組みますが、人口減少や高齢化や地方自治財政の縮小など成長管理型社会への移行が、時代状況の中心課題となり施策が足踏みします。国が推奨する都市政策の方向性もあり、平成25年（2013）多摩市は「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を市民に示しました。近い将来の公共施設建て替え更新にはじまる財政負担の危機を予測し、持続可能なまちづくりを行政と議会が研究議論したビジョンの市民への提示でした。ここに、図書館本館の再整備と地域館の削減が提示されます。これは施設削減を越えて、これまでの図書館政策の理念の変更や身近な暮らしを支える施策の後退と見えて、各地の多くの市民が異議を表明し、運動を展開しています。40年の多摩市の図書館の歴史を振り返ると、図書館サービスをおだやかに享受する幸いな情景がありましたが、それぞれの地域館に利用者友の会が生まれるなどの地域図書館と市民が向き合い支えあう運営の常態は育ちませんでした。しかし記録をさかのぼれば、当初、多摩市立図書館が掲げた理想は、現代の図書館の3原則に加えて「自律した市民の存在」でありました。この度の図書館奉仕に関わる行政と市民が重ねた議論や思いは、根源的理想を確かめる出来事とも思われます。

※現代の図書館の3原則  
・図書の貸出奉仕の重視  
・子どもサービスの重視  
・全市全域サービス重視

平成28年（2016）7月、いくつかの社会状況の変化や多様な市民意見の反映もあり、多摩市は「公共施設の見直しと将来像（行動プログラムの見直し）」を提示します。当面は現状地域館を存続し、本館再整備など多摩市の図書館全体像を市民とともに考えてゆこうという提案です。さて、前述の社会状況の変化とは以下の4点です。  
・H25秋. 市財政の展望をふまえた「行動プログラム案」の分館縮減案に大きな市民反響と行動。  
・H26夏. 都市計画税の用途を緩和する法改正により、市財政計画の前提と展望に状況変化。  
・H27秋. 鶴巻倉庫跡地整備案の進捗困難な状況に、優良条件の適地の取得可能性が生まれた。  
・H28春. 多摩センター地区の、中央公園、パルテノン多摩、図書館新本館（中央館）を連携する再整備の方針が公表され、それぞれの検討が始まる。

※新たな敷地に再整備された新本館を、多摩市立中央図書館と呼ぶことも考えられます。

本調査「多摩市立図書館本館再構築基本構想」は、図書館に関わる市民団体や施策につながる行政部局へのヒアリングを基礎資料として、7回の策定委員会での協議を整理編成するかたちで提言としてまとめられています。また、議論と編成の進め方については、以下の3つの原則をふまえたものとなっています。

- H23「多摩市立図書館の基本方針・運営方針について」とH28「多摩市読書活動振興計画」を「本館再構築基本構想の基盤」として策定委員会は議論する。
- H22図書館協議会「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について（答申）」を「本館再構築基本構想の骨格」として策定委員会は議論する。
- 「市政世論調査や各種アンケート」「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に係る市民説明会やパブリックコメント」「グループヒアリング」など、これまでの図書館政策への市民意見をふまえ、素案への意見も積み重ねて、基本構想素案を策定委員会は議論する。

構想検討の終盤に基本構想原案は、市民フォーラムやパブリックコメントなど広報公聴を経て、策定委員会で再調整され構想提言となります。多摩市立図書館の将来像に、本構想が市民的共感を得て、図書館システムの成長に資することを目的とします。

はじめに	
構想立案の経緯	0-02
・本館再構築基本構想までの経緯／基本構想議論の3つの方針	
第一章 多摩市民の図書館のいま	1-01
1-1. 多摩市のいまと図書館政策	1-02
1-2. 多摩市の図書館サービスの現状	1-04
1-3. 多摩市の図書館サービスの課題 (現況と課題チャート)	1-06 1-08
1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯	1-10
第二章 多摩市民のめざす図書館	2-01
2-1. 「知の地域づくり」のための図書館 (基本方針と5つの運営方針)	2-02
2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館	2-04
2-3. 多摩N.T.再生まちづくりに役立つ図書館	2-06
2-4. あたらしい多摩市立図書館への提言 (提言チャート)	2-08 2-09
第三章 多摩市民を支える中央図書館	3-01
3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに	3-02
3-2. 中心地区につながる開かれた中央図書館	3-04
3-3. 基本的図書館サービスと新しいサービス	3-06
3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを	3-08
第四章 中央図書館づくりの進め方	4-01
4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点	4-02
4-2. 資料世界構築と開架の配架表現	4-03
4-3. 大切な図書館員の専門性と組織づくり	4-04
4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり	4-05
策定委員会の経緯と構成	5-02
おわりに	5-04
別冊 資料編 基本構想策定の経緯と記録	
(1) 策定委員会要点録	
(2) 策定委員会の協議検討資料	
(3) 関係団体等とのヒアリング記録	
(4) 基本構想原案の広報公聴の記録	
別冊 基本構想概要版	

## 第一章 多摩市民の図書館のいま

- 1-1. 多摩市のいまと図書館政策
- 1-2. 多摩市の図書館サービスの現状
- 1-3. 多摩市の図書館サービスの課題
- 1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯



## 1-1. 多摩市のいまと図書館政策

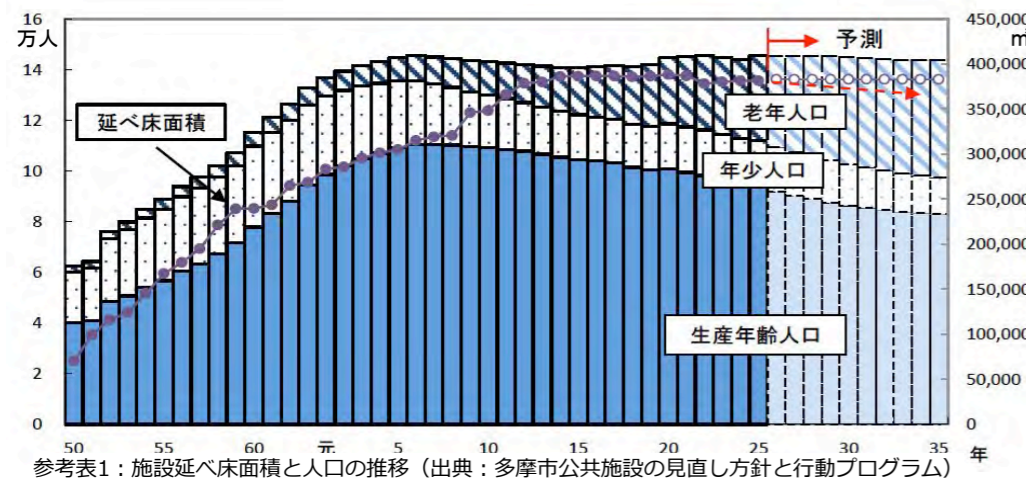
### (1) 多摩市の都市環境と15万都市コミュニティの魅力

平成28年の今、各種既往統計調査から多摩市の地域社会を下のように俯瞰します。

- ・昭和40年代から開発された多摩ニュータウン区域は市域の6割を占めて、多摩市は成長し、そのコミュニティは平成2年頃には14万都市となっています。
- ・平成に入り四半世紀の人口はほぼ横ばいの微増減状態ですが、平成14年のボトム14万人から、平成28年の14.8万人に、団地の建替え更新もあり社会増がみえます。
- ・世代構成では平成に入り生産年齢が減少、年少人口は微減、老年人口は1.5倍増となっているが、団地建替えで世帯増や若い世代の誘導など新施策が進みます。
- ・順次団地を建替え更新する期間の人口の社会増減はありつつも、住環境の魅力と四半世紀のトレンドで俯瞰すると、近将来の多摩市を15万都市と想像できます。
- ・暮らしを支える社会施設は、団地開発にともなう公共施設整備で整えられて、既成市街地の行政に比べ大きな負担はなくその後の公共施設拡充が進んでいます。
- ・過疎化高齢化と地方自治縮小に直面する地方他都市とは様相が違うが、行政規模調整、税収財政の縮小、40年を経た公共施設の建替え負担、など全国共通の行財政改革が表明され、住民サービス低下の賛否と対立して官民議論が争鳴しました。
- ・非住居系用途の変化としては、40年代計画の児童発生率が沈静し学校減と種地化、災害に強い地勢から大学やIT関連業種の立地集積など別の成長性を予感させます。

※多摩ニュータウン再生の団地建替えが進んでいる。人口や年齢構成に関わる戸数増や若い世帯の移入を促すため、暮らしやすく魅力的な多摩市の自己表現も求められる。

※在住市民が評価している多摩市行政サービスの筆頭に図書館があげられる。市民の要求に応えられる現状図書館再構築整備も次の時代の社会インフラとして多摩市民を支える。



### (2) 第五次総合計画の時代に・・・都市施設の更新と財政計画の見直し

平成25年「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の状況認識と、平成28年更新表明と各地での状況説明では、大きな状況認識の変化がありました。

- ・都下26市比較で市民1人当たりの公共資産額（将来の更新維持の負担）は1位です。前述の都市形成時の順調な公共施設整備は建替え更新時の負担規模につながります。
- ・大局的かつ長期的に行財政と公共サービスの点検と適正規模化が必要とされました。自治財政支出の大きな割合が行政サービスの人件費であり常に点検改革が必要です。
- ・少子高齢化と住民税の減収傾向は、大規模改修施設面積が全体の77%となる平成35年に行政対応がゆきづまる、などが、行政と議会の研究から観測されていました。
- 多摩N.T.再生方針(H28)と団地建替え更新と子育て世代の流入促進。学校跡地活用。
- 都市計画税（市税収入の6%）の用途への規制緩和(H26)が財政予測を変えました。
- 「健幸都市・多摩の創造」の旗印のもと既存公共施設の機能複合化や転換の方針。
- 行動プログラムに対する陳情、地域施設存続要望を大規模改修する時期まで再検討。
- ・平成25年策定後の上記の4つの環境変化によって、近将来にはパルテノン多摩、エコプラザ多摩、中央公園、図書館新本館整備、市役所の整備事業が予定されます。
- ・図書館の施設では、4つの地域館が廃止され、2つの拠点館と本館再整備(行政資料室機能存続)の体制に集約する方針が撤回され、当面施設数は存続し検討されます。
- ・全体図書館システムのありようと本館再整備(新中央館)方針については、図書館サービスの施策が重要であり、基本構想策定と以降の計画にゆだねるとしました。

※平成23年第五次総合計画は、少子高齢化と人口縮小による地方自治行財政の縮小化予測に対応したコンパクトシティの理念がその基礎に想像される。

※多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム～少子化・超高齢化社会に向けた持続可能なまちづくりのために～平成25年11月 多摩市

※多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム～少子化・超高齢化社会に向けた持続可能なまちづくりのために～更新案(総論)(各論)同 地域説明会資料平成28年9月更新予定 多摩市

※図書館計画は「ものの計画」よりも「こと」の計画が先行する。また、「どうつくるか」よりも「なぜつくるか」が先行されるべきです。

### (3) 行財政運営からみた図書館政策とマネジメントへこれまでの指摘

昭和48年開館以降、多摩市民の暮らしを支える図書館サービスをめざした活動で、貸出やリクエスト対応の高い実績を多摩市立図書館は続けています。しかしながら、多摩市読書活動振興計画には、図書館運営側から見た図書館が抱える7つの課題が整理されていますし、市行政と多摩市議会からは、教育委員会に対して、以下のような「図書館の運営に対する指摘」があることが記載されています。

※多摩市読書活動振興計画～市民の読書活動を支える取り組みと土台となる図書館の運営について～平成28年5月 多摩市教育委員会

- ・平成27年7月の唐木田図書館開館に際して、施設増加に対応した人員体制が組めない状況から窓口業務委託となった。図書館の機能、運営方法等全般についての抜本的見直しが必要。今後の図書館運営についての考え方を示すよう求める。

※多摩市立図書館の7つの課題については、後段の整理による。

多摩市議会からは、以下の4点の評価があります。

- ・平成23年度決算における事務事業評価において、現状維持による図書館行政の発展向上が考えにくいことの検討を要する。
- ・公共施設総量見直しの視点から、全図書館で同一均質のサービスを提供することについても検討を要する。
- ・「目指すべき図書館像」を明らかにし、具体的処方箋を描くべきこと。
- ・財源のみでなく人的資源も先細りの現実を直視し、公立図書館の質向上につながる最適サイズを考えるべきこと。

※多摩市立図書館の7つの課題については、後段の整理による。

平成28年、図書館運営の基本方針は直営がのぞましいと市長発言がありました。これらもふまえて、今後、図書館運営の課題の解決策や体制再編の研究が、財政計画や人事計画との調整を含めて組み立てられることでしょう。研究は、本館再整備と立ち上げ期間の計画と、7館1室図書館システム体制の経常的計画を意味します。

※多摩市立図書館の運営は直営でゆくとという市の方針の正式な機関決定は、現状ではされていません。

### (4) 総合計画に位置づけられてきた暮らしを支える多摩市の図書館政策

多摩市の都市政策では、これまで、図書館政策が重視されてきました。そして図書館をサービスの仕組みとしてとらえ、全域のサービスネットワークについても的確にその方針が述べられてきました。それは市民と行政の共通の図書館観と言えるでしょう。市民はそのように図書館を理解し、行政も政策を手段としてではなく理念として、近年まで理解されてきたことが以下に読み取ることができます。

※平成27年度多摩市の一般会計に占める図書館歳費は1.16%、6.3億円です。この比率は多摩市が図書館政策を重視している証として内外から評価されてよいところです。

※他方、図書館歳費に占める人件費率は74%と上昇傾向で、結果として年間資料費は圧縮され図書館の魅力化に十分な政策投資が活かされていません。この度の本館再構築は全体の図書館経営を見直し、多摩市全体の図書館を活性化するための取り組みと位置づけられるでしょう。他市との比較などふまえ改革の研究が望まれます。

- 平成3年～「第三次多摩市総合計画 基本計画」
- 平成8年～「第三次多摩市総合計画 21世紀に向かう新たなまちづくり」
- ・図書館ネットワークの整備： 中央図書館と地区図書館それぞれが機能を補完する有機的な図書館網の構築に努めます。また、市内公共施設、都立図書館、国会図書館、他市の図書館および大学とも連携してネットワーク化に努めます。
- ・中央図書館の建設： 市民の自発的な学習を資料面から支える中心施設として多摩センター駅周辺地区に中央図書館を建設します。
- ・地区図書館の建設： 市内のどの地域に住む住民も、図書館を身近に利用できるよう地区図書館を建設します。
- 平成13年～「第四次多摩市総合計画 基本計画」
- ・図書館ネットワークの充実：(省略)
- ・地域図書館の整備： 市民が身近に図書館サービスを利用できる地域図書館として「(仮)唐木田図書館」を建設します。
- ・中央図書館機能の整備： 市民の学習を支える基幹的な役割を持つ図書館については、従来の身近な図書館サービスの充実に加え、高度化、多様化する市民の要求に応えるために、図書館ネットワークの中心的機能、増大する資料を整理・保管する図書館資料センター機能および資料や情報の収集・提供・調査・研究などの市民の学習を支える機能などを有する中央図書館機能の整備に着手します。また、既設の地域図書館との図書館サービスの役割分担や運営について見直しを図ります。
- 平成23年～「第五次多摩市総合計画 基本計画」
- 平成27年～「第五次多摩市総合計画 第2期基本計画」
- ・学習環境の整備：「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の実現を図りつつ、時代に合った学習情報環境を整備することにより、多様な価値観の中で、市民が必要な情報を得られるようにする為、図書館のあり方について分散型から集約型に向けた検討を進めます。あわせて地域での図書館サービスに関する市民活動を進めます。

※平成3年～第三次総合計画の図書館政策の記述。

※平成13年～第四次総合計画の図書館政策の記述。

※平成27年～第五次総合計画の図書館政策の記述。

※分散型から集約型へ図書館が向かうとある。

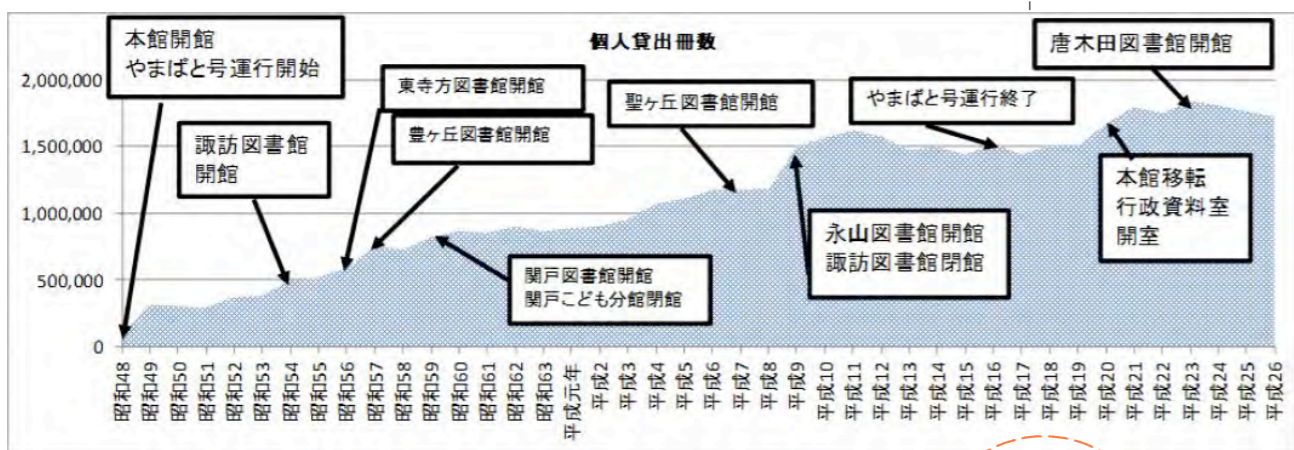


## 1-2. 多摩市の図書館サービスの現状

### (1) 多摩市立図書館の成長とサービスシステム

- 昭和48年開館から43年を経た多摩市立図書館は、年間に68万人市民の173万冊貸出と47万件リクエストに応える図書館サービスシステムに成長しました。これは全国同規模自治体中で、個人貸出冊数が第二位、予約受付件数が第一位の利用実績です。

※下表の出典：読書活動振興計画 H28年5月 多摩市教育委員会

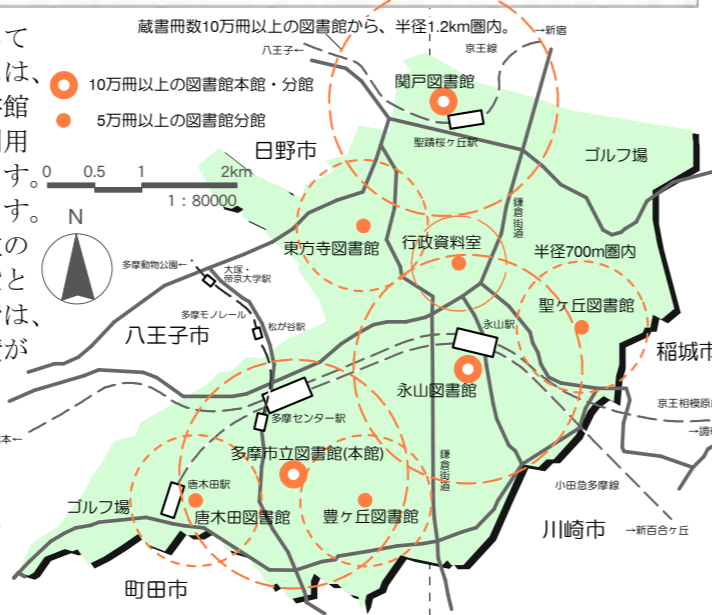


- ・全市全域サービスを多摩市立図書館の理念として自動車図書館巡回から始まったサービスシステムは、市内7館1分室の図書館施設群と本市の学校図書館をネットワークし、近隣七市の図書館とも相互利用でつながり、市民の支持を得て成長を続けています。
- ・市民から見た図書館について各種調査があります。図書館の認知度は二位の89.9%、利用経験は三位の67.9%、年間利用回数で一位、よく利用する施設としても図書館が一位でした。平成26年度の統計では、人口に対する登録者は41.3%、一年間に貸出実績がある利用者は、人口に対して21.2%でした。

### (2) 多摩市立図書館を構成する施設群

- ・多摩市立図書館というサービスシステムを構成する、7館1分室の図書館施設群の環境と活動の概要です。

- ・この図書館システムの成長にとって課題を抱えている本館の再構築が計画されるとき、下表に総括された資料群と人的なストックをベースに、活動が分析され合理的な再編研究が必要です。併行的に、今後検討が始まる拠点館と地域館の将来像についても、専門性を堅持しつつ地域の要望に応え充実して、持続性のある方策を全体資源の再編と調整するために、利用者とともに、さらなる研究が必要です。



※施設の認知度・利用率：  
・多摩市政世論調査H25年  
・公共施設の適正配置に関するアンケートH24年  
・公共施設の見直しについてのアンケートH27年より

統計 (H27年度)	本館	永山拠点館	関戸拠点館	東寺方地域館	豊ヶ丘地域館	聖ヶ丘地域館	唐木田地域館	行政資料室
床面積施設型	5,480㎡ <sup>団体貸出</sup> S48築/H20移転 旧校舎/単独施設	1,039㎡ <sup>共用部</sup> H9築 公民館複合施設	1,045㎡ <sup>共用部</sup> S59築32年 商業複合施設内	551㎡ S56築35年 福祉複合施設	508㎡ S57築34年 福祉複合施設	842㎡ H7築21年 公共複合施設	577㎡ H23築5年 公共複合施設	100㎡ H20築8年 市役所庁舎内
資料数	蔵書34.8万冊 開架11.1万冊 100%	開架10.9万冊 14.3%	開架10.1万冊 13.2%	開架4.2万冊 5.5%	開架5.8万冊 7.6%	開架4.9万冊 6.4%	開架4.6万冊 6.0%	開架1.0万冊 1.3%
貸出冊数 (H27年度)	年間38.9万冊 22.6%	年間48.8万冊 28.3%	年間35.3万冊 20.5%	年間9.2万冊 5.3%	年間16.4万冊 9.5%	年間10.7万冊 6.2%	年間12.7万冊 7.4%	年間0.5万冊 0.3%
貸出人数 (H26年度)	年間13.5万人 19.9%	年間20.8万人 30.7%	年間14.8万人 21.8%	年間3.3万人 4.8%	年間6.2万人 9.1%	年間4.1万人 6.1%	年間4.9万人 7.2%	年間0.25万人 0.4%
リクエスト数 (H26年度)	年間8.8万件	年間14.4万件	年間10.0万件	年間2.6万件	年間4.7万件	年間3.2万件	年間3.5万件	年間0.3万件
職員総数	41人	20人	17人	5人	8人	6人	9人	3人
雇用構成	常勤25.嘱託16.	常勤6.嘱託14.	常勤6.嘱託11.	常勤0.嘱託5.	常勤2.嘱託6.	常勤2.嘱託4.	業務委託9.	常勤3.
貸出密度	0.95万冊/年・職員	2.44万冊/年・職員	2.08万冊/年・職員	1.84万冊/年・職員	2.05万冊/年・職員	1.78万冊/年・職員	1.41万冊/年・職員	0.17万冊/年・職員
開館時間	月~金:9:30-18:00 土:9:30-17:00 休:第1木曜/祝・休日	月~金:9:30-19:30 土:毎週木曜	月~金:10:00-19:30 土:毎週木曜	月~金:10:00-17:00 土:毎週木曜/祝・休日	月~金:10:00-18:00 土:毎週木曜/祝・休日	月~金:10:00-18:00 土:毎週木曜/祝・休日	月~金:10:00-18:00 土:毎週木曜/祝・休日	月~金:8:30-17:00 毎週土日と祝・休日休館

### (3) 市民の利用の状況と特色

- ・近年の利用状況では、本館、関戸、永山の3館で全体の約70%を占めています。
- ・多摩市民は、図書館の規模・役割・特色に応じて、使い分けてもいます。
- ・図書館全体の選書や目録への登録、リクエストや協力貸出のとりまとめなどバックヤード機能を担う「本館」には、企画相談や講座や調べ物や滞在型利用で使います。
- ・通勤通学や買い物などの便がよい駅前の関戸、永山分館は、「拠点館」と呼ばれ資料の多さと夜間や休日開館もあることから、多くの利用者が集中しています。
- ・子どもや高齢者は、歩いてゆける「地域館」を日常的に使っています。蔵書が5万冊程度でその本も返却館に止まるので、リクエストに頼り本を取り寄せる方式です。
- ・永山は障がい者支援の拠点であり、関戸には活動室があり、地域館には文庫のお話ボランティアが活動しています。どこも、お話コーナーだけでお話しがありません。
- ・新聞雑誌コーナーはどこも点数が多くありません。寛ぐ居場所が望まれています。
- ・地域資料や調べ物の要望が多いが本館でも十分でなく、要求の質が高まっています。

### (4) 構築された資料群とその表現、管理システムの状況

- ・図書館群全体で、蔵書冊数は76.3万冊、開架資料は52.6万冊、閉架資料23.7万冊。
- ・年間の購入資料費が少なく館数が多い。複本を購入できないので構造的な資料配架や関係化された魅力的棚づくりや表現が、目標化されていない状況もうかがえます。
- ・リクエストに応える選書構築や、返却された館に資料が動くシステムで、図書館ならではの構造化された資料世界表現を目指すことが難しい開架室の印象があります。
- ・開架規模10万冊の本館と2拠点館、5万冊規模地域館の、全体規模に対応した資料の構造化、つながり、奥行きなど、開架室の表現に新味と意図が見え難いようです。
- ・閉架書庫と団体貸出室は10年暫定利用の本館上階にあるが、荷重や空調が課題です。
- ・平成18年導入の図書館資料管理システムは、7図書館1室と27学校図書館を結んで、市域全体蔵書の一元管理、所蔵情報と資料利用の共有化ができています。利用者はインターネットで、蔵書検索、予約、利用照会（貸出予約・状況確認）ができます。通信連絡も同システムのメールが活用されて、業務の効率化が進んでいます。

※他市の図書館でも近年その取組みが試行されているが、本館分館ともに、魅力的な開架室づくりが求められている。それぞれの館の収容力や全体の役割分担などの全体再編をふまえた再構築が今後必要になるだろう。

### (5) 図書館員の体制

- ・図書館群全体で職員総数は109人。常勤/再任用/再雇用44人、嘱託56人、委託9人。
- ・常勤44人中司書有資格23人、総務・企画運営・地域資料・子ども読書支援を担当。
- ・平成7年聖ヶ丘図書館開館時から嘱託職員(全員司書)制度を導入、常勤と嘱託の他、非常勤一般職(年間1500時間を1人日で換算)が窓口など補完的業務を行っています。
- ・平成22年から東寺方図書館で、平日に嘱託職員が運営する方法を試行しています。
- ・平成23年唐木田図書館開館から兼務館長は常勤、窓口業務は委託を試行しています。
- ・職員人件費の抑制と、専門性を維持育成する職員配置の両立が困難な状況です。

### (6) 開館時間や力をいれているサービス

- ・全域サービス体制を維持し開館時間延長や休祝日の拠点館開館など改善しています。
- ・児童サービスを重視して、お話しや読み聞かせ講座を市民グループと行っています。
- ・障がい者サービスでは、来館困難な利用者に希望図書宅配サービスをしています。
- ・京王線沿線七市が18項目の広域連携をして図書館サービスの相互利用をしています。

※平成18年に多摩市子どもの読書活動推進計画を策定平成24～28年第二次計画の途中。図書館、市民ボランティア、行政窓口、小中学校などと連携している。

### (7) 学校図書館の状況と公共図書館の後方支援

- ・全ての小中学校に学校司書が配置され、平成18年から公共図書館システムと学校図書館が連動し、共通書誌化でインターネット検索や予約の資料世界が広がりました。
- ・公共図書館は、学校連絡会で相互連絡、図書館間の物流支援、調べや朝読資料提供、推薦ブックリスト、専用団体貸出カード、データ登録装束代行、研修会、図書館に小2学級招待、中学生職場体験受け入れ、子ども読書まつりなど連携支援しています。
- ・学校図書館の取組みは早かったが、資料費が少なく地域格差が残る課題もあります。
- ・多摩市小中学校の生徒児童の図書貸出状況には未だ大きな伸びしろがありそうです。
- ・他市の取組成果と比べると、児童生徒1人資料費と1人年間貸出数に相関が見えます。
- ・図書館協議会は、公共図書館からの支援と学校図書館自身の振興を答申しています。学校司書集団の専門性と十分な資料供給など、体制充実への今後の課題も見えます。

※昭和56年の国際障害者年から障がい者サービスを開始。対面朗読、録音点訳資料の制作、情報機器配備、自宅へ図書の宅配サービス実施。

※平成22年の図書館協議会の「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」では、中央図書館は学校教育の資料センターとして連携するべきとあるが課題もある。



## 1-3. 多摩市の図書館サービスの課題

### (1) 現在の「本館」の問題点・・・(H22.図書館協議会の答申から)

多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ以下のように課題総括しています。

#### ○これまでの経緯と進捗について：

これまで中央図書館の必要性については市民の要望が強く、平成2年度に「仮称多摩市立中央図書館基礎調査」、平成3年度に「多摩市における中央図書館建設に向けての構想案」、平成10年多摩市図書館協議会答申「多摩市立図書館の施設整備及び図書館サービスの在り方について」からも12年経過した。それにもかかわらず実現しなかったことは誠に残念。(中略)市の未来を展望して決断の時がきている。

#### ○現在の「本館」の問題点、中央図書館設置が急務な理由。

現在、多摩市の中心館である図書館本館は、学校跡地を10年間の暫定施設として最小限の改修をしたのみであり中央図書館と呼ぶには様々な問題があります。以下要約。

- ・市民誰もが使える施設でなければならないが、坂の上、バス停から遠い、階段や坂を上がる必要があるなど障がい者、高齢者、幼い子ども連れで利用するのが難しい。
- ・駅から坂の上の敷地まで徒歩15分あり、車で来館する場合も駐車場が狭すぎる。
- ・延床面積は広いが、元教室の耐荷重のため書架を分散配置して移動距離が長い。
- ・EVが建物の端の位置にあり、障がい者や高齢者は2階の閲覧室を利用するのは不便。
- ・床の耐荷重の問題で蔵書収容力が低く、資料が各館に分散配置され本館利用が不便。
- ・3、4階利用書庫の元教室は冷暖房(温湿度管理)が無く、貴重な蔵書の劣化がある。

### (2) 多摩市立図書館の抱える課題・・・(H28.読書活動振興計画から)

市民の読書活動を支える取り組みと「土台となる図書館の運営」についての副題がついた読書活動振興計画は、3項目で課題を俯瞰し、8つに課題の総括をしています。

#### ・第1：多摩市立図書館の抱える課題

- ①急速に進む高齢化：団塊の世代が後期高齢者の年齢に達する「2025年問題」が言われている。短期間で多くの人口が流入したニュータウンは、国を上回る水準で高齢化が進行すると予測され、年金や医療、介護といった社会保障費の急激な増加にもつながる。安定的な行財政運営における大きな課題と、図書館経常費維持の展望がつながっている。
- ②暫定活用も含めた施設の老朽化：多摩N.T.の初期入居から40年以上が経過して、公共施設の老朽化に対し、必要な維持管理と更新ともなう財政負担は重く予測された。平成25年11月「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」では図書館本館の移転再整備を、東寺方、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田図書館の廃止をという方針を一度提示した。平成28年「市民要望を受けて当面存続し検討」。市民と行政で今後、更新の研究を予定。
- ③資料費の確保と人件費：図書館費は約63,709万円(平成26年度)で内訳は資料費8%、運営経費18%、職員経費が74%(唐木田図書館窓口業務委託費の約3千万円を合わせて、職員経費79%)。資料費は5,049万円、多摩地域の人口10～20万人規模の13市と比較して5位。現状より資料費を増額確保するには、効果的効率的な図書館の運営が必要となる。嘱託職員による運営の拡大をさらに進めるなど人件費の構造改革をしていく必要がある。
- ④職員の先細り：市民のニーズを踏まえた図書館資料の組織化や図書館経営にあたる職員は、経験と知識が求められる。常勤職員が高齢化し定年を迎えていく中、常勤職員と嘱託職員の役割分担、職員集団としての専門性を維持・確保するための役割に応じた人材育成などのしくみづくりが必要となる。
- ⑤ICTの活用による新たな情報提供や業務効率化：電子書籍導入、貴重な地域資料のデジタルアーカイブ化など電子媒体の利用環境は十分整備されていない。また図書館システムの更新やインターネットの活用により、図書館利用環境の改善や業務の効率化を図ることは、サービスの改善や職員の働き方の課題解決にも関連する重要分野となる。
- ⑥書庫：書庫については、これまで学校跡地などに分散していたものを本館に集めることができたが、床の荷重の問題や空調など、持続可能な環境とはいえない。
- ⑦蔵書の適正管理：図書は以前からの課題であり、拠点館2館には不正持出し防止装置を設置し効果が見られる。しかし本館では、書架の見通し悪さもあり亡失対策は大きな課題となる。近年、ICタグを用いて自動貸出と組み合わせた取り組み例もある。また、水濡れは本の大敵であり、書き込みや汚損の事例もある。次の利用者のために、返却時に1冊1冊点検をしているが、負担の大きい作業となっている。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
2, 5, より



図書館本館入口

※出典：平成28年5月  
多摩市教育委員会による  
「多摩市読書活動振興計画」  
II 課題 より

⑧図書館の運営に対する指摘：唐木田図書館の窓口業務委託の状況から、市は教育委員会に対し、図書館の機能、運営方法等全般について抜本的な見直しが必要との見解を示し、今後の図書館運営についての考え方を示すよう求めた。また、多摩市議会は、平成23年度決算における事務事業評価において、現状維持による図書館行政の発展向上が考えにくいことや施設総量見直しの視点から、全図書館で同一均質のサービスを提供する必要性についても検討を要すること、『目指すべき図書館像』を明らかにし具体的な処方箋を描くべきこと、財源のみでなく人的資源も先細りの現実を直視し、公立図書館の質向上につながる最適サイズを考えるべきことなどの評価を行った。

- ・第2：国の基準等と比較した多摩市立図書館のサービス等の課題
- ・第3：とりまく状況や課題を踏まえた読書活動と多摩市立図書館の改善・向上

### (3) 多摩市立図書館の現在の蔵書の特徴とその課題

多摩市立図書館の蔵書を、カーリルというデータアプリを用いて、優秀な先進館である浦安と調布の図書館の蔵書構成と比較した調査研究を引用して述べてみたい。

- 多摩市の図書館は資料費の厳しさに比べて多様な図書を購入しているが、それらは地域館拠点館に分散的に所蔵され、利用者は一図書館でアクセスできていない。
- 多摩市の図書館は複本購入を抑制し、多くのタイトル数を購入する傾向があるが、他市に比べ予約件数が多い背景には、ひとつの図書館でのアクセス困難がある。
- ①多摩市民がアクセスできる図書のタイトル数が多い：1685件(カバー率 15.9%)  
(2015年度 多摩市資料費4490万円、浦安市8549万円.2334件22.1%、調布市6700万円.1978件.18.7%)
- ②最大の永山図書館でも出版物の4.7%のタイトル数にしかアクセスできていない。  
(カバー率 永山495件4.7%、本館418件4.0%、関戸401件3.8%、  
唐木田233件2.2%、豊ヶ丘222件2.1%、聖ヶ丘166件1.6%、東寺方156件1.5%)
- ③多摩市の図書館では永山の方が多くの本にアクセスできるが4.7%と低い。  
(2015年度 多摩永山495件 4.7%、浦安市立中央館 2061件 19.5%、調布市中央館 1807件.17.1%)
- ④最大の永山図書館でのアクセスできる全市比率は30%：(相対中央館アクセス率)  
(2015年度 多摩永山495件29.4%、浦安市立中央館 2061件 88.3%、調布市6700万円.1807件.91.3%)
- ⑤多摩市は複本が少なく全体のタイトル数を重視している：(平均複本冊数)  
(複本冊数 多摩市 1.269冊、浦安市 1.777冊、調布市 1.868冊、)  
浦安市調布市は中央図書館で自治体で購入する図書のほとんどを入れ、分館は複本を購入している。)
- ⑥多摩市は浦安市や調布市と比較して異なる選書傾向にある：(一致率)  
(選書一致度 多摩市 55.5%、浦安市 100%、調布市 76.0%、)
- ⑦多摩市は浦安市や調布市より予約リクエストが多い。(ひとつの図書館での充足)  
(リクエスト数 多摩市 475.7千件 100%、浦安市 435.2千件 91.5%、調布市 208.0千件 43.7%)  
これらの状態(多様な資料に一箇所でアクセスできないという)の改善が最大の多摩市立図書館の課題であり、中央図書館整備の必要性と意義がここにあります。

### (4) 図書館の課題に対するその他の市民意見の洗い出し

本構想では、図書館の課題を専門の眼で整理している左の二つの資料に加えて、

- ・平成19年.多摩市民まちづくり討議会報告書：第1章討議の結果と市民からの提案
- ・平成23年.多摩市立図書館の基本方針・運営方針：市民アンケートのご意見
- ・平成28年.公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案：パブリックコメントから、市民利用者のご意見を洗い出しています。

基本構想の策定委員会と併行して、図書館に関わる市民グループや学校や行政のヒアリングを重ねて記録に留め、策定委員会での議論の材料にしてきました。これらの多様な方法で時間をかけて集められた図書館の課題に関わるご意見を、17の要素ごとのカードに分類と縦軸横軸の関係づけをして、マトリックス状に一覧表に並べたものが、次のページの「現況と課題の総覧チャート」です。

※多摩市立図書館の蔵書を名高い浦安市や調布市と大妻女子大松本研究室がカーリルを使って比較分析をしています。

※カーリル：国内の6000の図書館蔵書検索や、貸出状況などを横断検索できる民間運営アプリ。

①国立国会図書館の2015年の書誌162,283件からのサンプルでISDNが付いた10,570件の各館所蔵調査。

③相対中央館アクセス率：市内の図書館のうち中央館でアクセスできるものの比率。集中性特化性評価。

④予約件数が多くなる背景と考えられる。

⑤平均複本冊数：複本購入の程度(分館運営方針)。所蔵総冊数÷タイトル数

⑥浦安市の蔵書をもとに、選書の一致度をみる。

※チャート：図表のこと。航海に必要な海図など位置関係を示しつつ、全体像を俯瞰するベースマップともなる。

# 1-3. 多摩市の図書館サービスの課題

## (5) 多摩市立図書館の全体像を説明する課題総覧チャート

現況と課題	資料世界 〈本・情報〉	図書館員 〈人・組織〉
<b>分館</b> <b>〈地域館〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>東寺方</li> <li>豊ヶ丘</li> <li>聖ヶ丘</li> <li>唐木田</li> </ul>	<b>カルタ01/本・地域館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館蔵書規模は約4.2～5.8万冊、全て開架。</li> <li>▲全集ものの全巻が揃って棚にない。</li> <li>▲3万～5万冊分館の生活に対応した蔵書構成に徹底されず、リクエスト返却の結果の資料世界。</li> <li>▲近年、地域館の資料購入図書が減っていて、利用者は永山図書館利用に傾斜している。</li> <li>▲新聞のタイトル数は6。雑誌は60。</li> </ul> <p>〈今後の地域館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎健康情報、乳幼児の絵本など資料に期待。</li> <li>◎行政ランチとしての資料収集に期待。</li> <li>◎新聞雑誌などの充実への期待。</li> </ul>	<b>カルタ02/人・地域館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館職員規模は5人～8人(唐木田9人)(常勤0～2人、嘱託等5～6人、唐木田委託9人)(職員1人年間貸出1.8～2万冊、唐木田1.4万冊)</li> <li>▲唐木田は窓口業務委託、館長は正職を配置。</li> </ul> <p>〈今後の地域館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎それぞれの地域館に相応しい資料構築への期待。</li> <li>◎必要な資料が手に取れるよう、地域館の職員が地域館の蔵書構成に責任を持つ体制が必要。</li> <li>◎小さい蔵書規模の分館の配架構成方針が必要。</li> <li>◎地域館にこそ専門性のある司書配置を。</li> </ul>
<b>分館</b> <b>〈拠点館〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>関戸</li> <li>永山</li> </ul>	<b>カルタ05/本・拠点館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館蔵書規模は約10万冊、全て開架。</li> <li>・新聞のタイトル数は関戸14永山18、雑誌のタイトル数は関戸約100永山約150。</li> </ul> <p>▲全集ものの全巻が揃って棚にない。</p> <p>▲開架室の成長の方向性、5年後の展望は。</p>	<b>カルタ06/人・拠点館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館職員規模は17人～20人(常勤6人、嘱託等11～14人の構成)(職員一人年間貸出2.1万冊～2.4万冊)</li> <li>・障がい者サービスは、職員全員の交代制で対応されている。</li> <li>・点字資料の作成は、市民グループ作業による。</li> </ul>
<b>図書館</b> <b>〈本館〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>現本館</li> <li>専門的直接サービス</li> <li>資料群構築センター</li> <li>アウトリーチサービス</li> </ul>	<b>カルタ09/本・現本館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館蔵書規模は約34.8万冊。開架11万冊。</li> <li>▲新聞のタイトル数は9、拠点館より少ない。</li> <li>▲雑誌のタイトル数は100未満、拠点館以下。</li> <li>▲視聴覚資料は近年購入していない。</li> <li>▲専門書のリクエストには近隣市相互貸借で対応。</li> <li>▲全集ものの全巻が揃って棚にない。</li> <li>▲群書類従など基本図書が分散して本館に無い。</li> </ul> <p>〈今後の中央館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎世界を体感できる豊かで深みあるコレクションを</li> <li>◎資料収集方針をしっかり作ってほしい。</li> <li>◎土日閉館の行政資料が収蔵された中央館を。</li> <li>◎そこに行けば何でも調べられる図書館がよい。</li> <li>◎点訳音訳/電子資料/有料データベースを。</li> <li>◎安全な資料の保管体制を。(調温度、調湿、防火)</li> </ul>	<b>カルタ10/人・現本館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館職員規模は41人(常勤25人、嘱託等16人)(職員一人年間貸出0.96万冊)</li> </ul> <p>〈今後の中央館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎本館を中央館にして、課題解決形のサービスを。</li> <li>◎役立つことに気づく中央館の運営を。</li> <li>◎急激に進む高齢化、高齢者に対する計画を。</li> <li>◎中央館が分館を充実させるよう支援するシステムを。</li> <li>◎職員組織が充実成長する合理的な職員体制を。</li> <li>◎図書館の長期ビジョン・全域奉仕を考える力。</li> <li>◎専門職が誇りをもって専門スキルを育てるように。</li> </ul>
<b>全域奉仕</b> <b>図書館システム</b> <b>〈ネットワーク〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政資料室</li> <li>幼稚園保育園</li> <li>(学校図書館支援)</li> <li>病院/老健施設/包括支援施設</li> </ul>	<b>カルタ13/本・ネットワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>渡邊茂男氏寄贈の「へなそらのへや」新設。</li> <li>・障害者サービスで資料の作成やデータベース共用進む。</li> <li>▲経年統計は、蔵書冊数は微減、資料購入費横ばい。</li> <li>▲図書に所在記号がなく返却館に置かれるシステム。</li> <li>▲関係付けた棚構成や棚表現が目指されていない。</li> <li>▲奉仕人口や館数に対する副本購入が無い。または出来ない。ベストセラー要望には20冊程度対応。</li> <li>▲副本が無く所在が不定でリクエストと物流が多い。</li> <li>▲文化財など多摩市の行政資料の表現が不十分。</li> </ul> <p>〈今後の図書館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎レファレンス機能や働き盛り世代への情報強化を。</li> <li>◎学校図書館の資料数や資料費は、文科省の基準を。</li> <li>◎中央館が分館を充実させるように支援するシステムを。</li> <li>◎収書方針は分野分類に沿ったレベルを決めて行いたい。</li> </ul>	<b>カルタ14/人・ネットワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館職員規模は109人(正職44人)(職員一人年間貸出1.59万冊)</li> </ul> <p>〈今後の図書館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎働き盛り世代に需要のある専門的資料の収集を。</li> <li>◎地域館に不十分な行政資料の収集と充実を。</li> <li>◎中央館が分館を充実させるように支援するシステムを。</li> <li>◎将来に外部委託化がされないよう計画的な有資格正規職員の採用と配置を。</li> <li>・学校図書館へは2回/日、調べ学習貸出の対応。</li> <li>◎学校図書館や学校司書の相談連携の図書館窓口を。</li> <li>◎学校と公共の司書の交流勤務研修や配置交換研究。</li> <li>◎学校図書館の資料支援相談、学校間連携、職員研修、など、公共図書館や図書館協会との関係強化を。</li> <li>◎図書館協会の活性化と削減された定数の復活を。(公募委員を増やして欲しい。)</li> </ul>
	<b>資料世界</b> <b>〈世界表現性・地域性〉</b>	<b>図書館員</b> <b>〈専門性〉</b>

この度の基本構想で、既往資料やヒアリングから集められた図書館の現況と課題への意見です。

・現在の状況、▲現在の課題、◎変化を希望

図書館施設 〈場・環境〉	市民利用者 〈活動〉	マネジメント 〈運営〉
<b>カルタ03/場・地域館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館床面積規模は約500㎡。(東寺方551.豊ヶ丘508.聖ヶ丘842.唐木田577㎡)</li> <li>・地域に近い図書館の魅力。児童生徒の居場所。</li> <li>・唐木田の喫茶コーナー、展示は人気がある。</li> </ul> <p>▲唐木田、聖ヶ丘以外の複合施設には老朽化の課題。</p> <p>▲高齢者や子どもには良いが働き盛りの利用に不足。</p> <p>▲お話室、研修集会、展示の機能が無い。</p> <p>▲包括支援センター設置のために現図書館割愛に反対。</p> <p>▲現状の事務/裏方スペースは狭く、機能的でない。</p> <p>◎地域コミュニティのひろばに。展示交流機能を</p> <p>◎開館時間の弾力化を(?)</p>	<b>カルタ04/活動・地域館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸出冊数規模は9.2万冊～16.4万冊</li> <li>・利用者数はH12→H26で増減に格差あり。(東寺方132%.豊ヶ丘52%.聖ヶ丘72%.合計18.4万人)</li> <li>・全ての地域館分館の貸出利用率は全体の30%。</li> <li>・豊ヶ丘は本館開設後の利用は半減したが依然多い。</li> <li>・職員のお話会、ボランティアのお話会が人気。</li> <li>・児童館や老人福祉館との連携ができる。</li> </ul> <p>◎高齢者や児童サービスを更に手厚くする必要。</p> <p>◎児童生徒が徒歩で使える地域館と学校の連携を。</p> <p>◎行動プログラムの更新で、存続となった地域館の将来像や再整備を、いっどう住民利用者と一緒に精査や検討をするのか予定を示して欲しい。</p>	<b>カルタ17/運営・経営</b> <p>▲唐木田図書館委託(6年)についての行政効果検証ができていない。</p> <p>◎休館日が増えても、新刊入荷が遅れても既にある良書がきちんとある地域館の存続をしてほしい。</p>
<b>カルタ07/場・拠点館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館床面積規模は約1000㎡。(関戸1045、永山984㎡)</li> <li>・永山の喫茶コーナーは人気がある。</li> <li>・地域に近い図書館の魅力。児童生徒の居場所。</li> <li>・関戸の研修室は人気。</li> <li>・永山は医療機関に近く、障害者支援活動の拠点。</li> <li>・市民の展示交流機能を。</li> </ul> <p>▲お話室、展示の機能が無い。</p> <p>▲永山は、資料スペース座席数ともに満杯状態。今後の成長の方向性をどうイメージするか。</p> <p>▲現状の事務/裏方スペースは狭く、機能的でない。</p>	<b>カルタ08/活動・拠点館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸出冊数規模は35.3万冊～48.8万冊</li> <li>・利用者数はH12→H26で増減に格差あり。(関戸116%.永山87%.合計35.5万人)</li> </ul> <p>〈今後の拠点館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎中央館整備後の、永山図書館と関戸図書館の将来像を構想し、再構成と魅力化策を考える。</li> </ul>	<p>〈今後の拠点館への要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎永山図書館に夜間受け取り機能を。</li> <li>◎中央館が出来ても、障がい者奉仕の機能を全て移転しないで欲しい。</li> </ul> <p>〈今後の本館マネジメントへの展望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎現状職員体制の行政効率の評価から、適正再配置の研究を行い、建設準備室の人員確保研究が必要。</li> <li>◎中央館計画について配置可能人員と開館時間計画の条件研究が必要。</li> <li>◎全域図書館奉仕の主体的運営を、常勤職員再編で行う研究が必要。</li> </ul>
<b>カルタ11/場・現本館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>10年間暫定施設として閉校の中学校を改修整備。</li> <li>・図書館床面積規模は約5480㎡を使用。(開架室860.閲覧室135.学習室102.事務室272)</li> <li>・2階学習室でパソコンが使えるのがよい。</li> <li>▲空調不十分だが、学習室、閲覧室などゆったり。</li> <li>▲駐車場規模、書庫や開架室床の耐荷重の不足。</li> </ul> <p>◎本館に無い新中央館機能を(まち討議会意見)</p> <p>居心地のいい空間/集うことの価値/書庫機能/学習支援/相互学習拠点/資料充実/他施設連携。静粛閲覧席増とサロンの分離/ICT個人ブース/AV視聴環境/グループ活動室/駐車駐輪場の充実/バリアフリー化/障害者奉仕/BM復活/予約本受取拠点/サロン空間/IT情報発信/多世代交流/保育環境/◎自由に集まり、充実したIT環境の中央館を。</p>	<b>カルタ12/活動・現本館</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本館の貸出冊数規模は永山に次いで38.9万冊。</li> <li>・利用者数はH12→H26で3倍増。(273%.13.5万人)</li> <li>・赤ちゃん向けお話会など企画が人気有り。</li> </ul> <p>▲暫定利用施設のため、駅から徒歩15分、坂の上。</p> <p>▲バス停から遠く多様な利用者アクセスが悪い。</p> <p>▲弱者の車利用にも十分な駐車場が無い。</p> <p>▲校舎利用のため荷重分散で利用動線が長い。</p> <p>▲荷重制限で資料は分館に分散配置されて不便。</p> <p>▲3.4階の書庫は冷暖房が無く、保存に適さない。以上から早急な中央館整備の必要性が、図書館協議会から答申されている。</p> <p>▲駅前の永山拠点館より貸出利用が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の基本方針・運営方針を持つ。</li> <li>読書活動振興計画(H28)を策定する。</li> <li>公共施設の見直し方針と行動プログラム更新で今後の変更の方向が示される。</li> <li>多摩市教育振興プランで学校図書館の施策が進んだ。</li> </ul>
<b>カルタ15/場・ネットワーク</b> <p>▲学校図書館を公共図書館の地域サービス拠点にするアイデアは、安全と授業カリキュラムで困難。</p> <p>▲学校図書館に新鮮な資料の充実をさせつつ、環境の魅力化への取り組みが、進んでいない。</p> <p>▲行政資料室は市役所第二庁舎に位置しているが、市の職員や議員の利用は盛んではない。(利用活性化のためのどんな取り組みがあるか)</p> <p>▲行政資料室には以前、郷土資料が配架されていたが、蔵書構成の見直しで本館に集約された。</p> <p>▲資料室資料の副本が本館に常備されていない。(以前郷土資料展示が行政資料コーナーにあった)</p>	<b>カルタ16/活動・ネットワーク</b> <p>○多摩市第五次総合計画/基本計画(施策の成果目標)では、H26年度市民一人当年貸出11.7冊を達成。</p> <p>○人口はH12→H26で、14.1万→14.8万人の微増。</p> <p>○登録者数・利用登録率41%(6万人)は好成績。</p> <p>(人口10～15万人都市中で貸出密度2位、予約1位)実利用者21%(3.1万人)、のべ貸出利用67.6万人。</p> <p>▲だが、利用者総数は14年間で減少傾向にある。</p> <p>▲年齢別では40代～70代。6歳から14歳が多い。</p> <p>▲5歳以下、15歳～20代の貸出利用が低調である。</p> <p>▲学校図書館は、全校に司書が配置され、公共図書館との連携など形が整いつつあるが、年間資料費が少なく、生徒児童の貸出密度が伸びていない。</p> <p>◎経年統計や他市統計から検証や研究が必要だろう。</p> <p>◎コミュニティの根幹、新中央館への交通アクセスの整備を。</p>	<p>▲H12→H26の経年統計で図書館費は、7.16→6.37億円。人件費委託費は、4.59→5.03億円。資料購入費は、9300→5050万円。</p> <p>職員数は、87人(常勤45)→99人(38)</p> <p>▲人件費比率の高さ、若い専門職員の配置が難しいことが課題となる。正規職員組織の専門性の継続が課題。</p> <p>◎どこの館でも正規職員配置があり、同じサービスが直営で受けられる期待。</p>
<b>図書館施設</b> <b>〈ひろば性〉</b>	<b>市民利用者</b> <b>〈市民性〉</b>	<b>レジリエンス</b> <b>サステナビリティ</b> <b>〈持続性〉</b>



## 1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯

### (1) これまで26年間の多摩市の図書館政策研究

多摩市の図書館政策の研究と市民への方針提示には、以下の蓄積があります。これらには市民参画があり、市民独自の研究活動と発表も残されています。

- 平成2年12月： (図書館計画施設研究所)  
『多摩市立中央図書館基礎調査 報告書』  
1 多摩市の図書館サービスのあらまし  
2 市民は図書館をどのように利用しているか  
3 図書館に貸出登録をしていない市民に聞く  
4 多摩市の図書館サービスの課題とサービス目標  
5 中央図書館に求められるもの (開架資料36万冊)
- 平成3年3月：  
『第三次多摩市総合計画 基本計画』  
・図書館ネットワークの整備  
・中央図書館の建設  
・地区図書館の建設
- 平成4年1月： (多摩市立図書館)  
『多摩市における中央図書館建設に向けての構想案 21世紀への図書館計画』  
1 これからの図書館  
2 中央図書館の役割・機能  
3 中央図書館のサービス  
4 中央図書館の資料 (開架40万冊、閉架60万冊)  
5 建築計画 (ワンフロア4,500㎡)  
6 管理運営
- 平成8年3月：  
『第三次多摩市総合計画 21世紀に向かう新たなまちづくり』  
・図書館ネットワークの整備  
・中央図書館の建設  
・地区図書館の建設
- 平成10年4月： (多摩市図書館協議会)  
『多摩市立中央図書館の施設整備及び図書館サービスのあり方について (答申)』  
1 中央図書館の必要性  
2 役割と機能  
3 中央図書館のサービス  
4 施設・設備・規模 (面積10,000㎡以上、蔵書32万冊、書庫100万冊)  
5 ふさわしい場所  
6 建築
- 平成13年3月：  
『第四次多摩市総合計画 基本計画』  
・図書館ネットワークの充実  
・地域図書館の整備  
・中央図書館機能の整備
- 平成19年12月： (多摩市まちづくり討議会実行委員会)  
『多摩市まちづくり討議会報告書』  
1 今の図書館何が足りない？  
2 どんなものを取り揃えましょう  
3 こんな工夫で利用度アップ  
4 多摩市に中央図書館は必要？  
5 市民が求める多摩市の図書館・図書館サービス  
(1) 運営方法 (2) 施設・設備 (3) 開館日時 (4) 新たなサービス要望
- 平成22年4月： (多摩市図書館協議会)  
『多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について (答申)』  
1 文化都市にふさわしい「本の館」を (総論)  
2 現在の「本館」の問題点  
3 中央館はどこに  
4 役割とサービス《100万冊規模の蔵書》
- 平成23年4月： (多摩市立図書館)  
『多摩市立図書館の基本方針・運営方針について』  
1 基本方針と運営方針、市民アンケートの概要と図書館の考え方  
2 現在の「本館」の問題点
- 平成24年2月： (多摩市教育委員会)  
『第二次多摩市子どもの読書活動推進計画』
- 平成25年8月： (多摩市図書館協議会)  
『多摩市立図書館の施設とサービスのあり方について (意見)』  
※行動プログラムの協議への回答についての意見  
1 施設のあり方について (開架30万冊、閉架50万冊、1万㎡規模)  
2 サービスのあり方について  
3 運営のあり方について
- 平成25年11月： (多摩市)  
『多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム』  
・4地域館の廃止と3館化構想
- 平成28年5月： (多摩市教育委員会)  
『多摩市読書活動振興計画』
- 平成28年7月： (多摩市)  
『多摩市公共施設の見直しと将来像』行動プログラム更新 ※出典：平成28年5月  
・4地域館の当面存続し検討と本館再構築の方針 多摩市教育委員会による  
同秋 ・パブリックコメントの総括 「多摩市読書活動振興計画」  
巻末資料2を総括し加筆して作成しています。

多摩市立図書館本館再構築基本構想  
第一章 多摩市民の図書館のいま



## 第二章 多摩市民のめざす図書館

### 2-1. 「知の地域づくり」のための図書館 (基本方針と5つの運営方針)

### 2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館

### 2-3. 多摩N.T.再生まちづくりに役立つ図書館

### 2-4. あたらしい多摩市立図書館への提言 (提言チャート)

※各頁の文章を補完する挿入写真は、活動のイメージをお伝えするための各地の図書館の風景です。



## 2-1 「知の地域づくり」のための図書館

### (1) 「知の地域づくり」のための図書館

多摩市の45年の歴史をふりかえり「知の地域づくり」を市民と考えてゆきます。

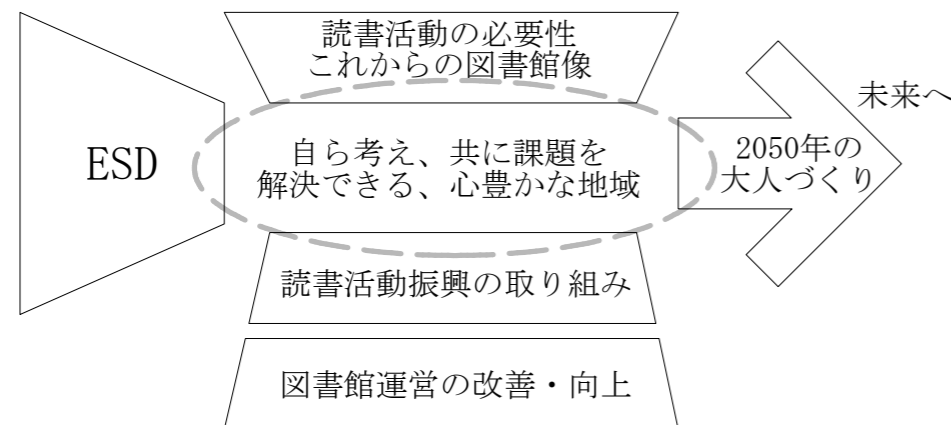
- 「耳をすませば」、多摩エリアは図書館が息づいている。
- 多摩市はコミュニティの核として図書館が重要な役割をはたしてきた。
- この街で高度経済成長時代、文庫活動、読書活動、読み聞かせに力を発揮してきた地域のお母さんたちが沢山いた、ということ。
- 今日伺ったことも踏まえて、図書館については直営を基本とすべきだと思う。そして文化を大切にしたい。
- 地域の文化に関するコーナー、行政資料のコーナー、多摩ではそのような資料を重視してきた。
- 図書館は、ある意味子どもたちの居場所だけでなく、広場だと思うし、知識の知縁と地域の地縁をつなぐ拠点であると思う。そのなかで働く、あるいは生活する、そして育っていくみなさんにとって幸せな知の拠点を、市民のみなさんとつくっていかねばと感じている。
- クールジャパンである漫画・アニメも含め大きく広い意味で活字文化ととらえ、これからつくる図書館は、年配の方だけでなく若い人の居場所でもあり、情報をあらゆる面で発信できる図書館にしたい。
- 平成23年、多摩市立図書館は、市民の声をアンケートでひろく聞いて、図書館の基本方針・運営方針を確定しました。現在も進行中のこの理念は、多摩市が「知の地域づくり」をめざす方針と重なるところであり、地域づくりの官民のほかの施策や活動とも、連携や協働をしてゆくことをめざしてゆきます。

### (1) <基本方針：市民の「知る」を支援する。> というのは、

多摩市立図書館は、持続可能な社会を目指し、すべての市民が必要とする資料や情報を得ることを支援します。

そして、いつでも、どこでも、だれでも 気軽に 利用できる図書館サービスの実現のため、地域や他機関と協力し、市民のみならずと一緒に、積極的な図書館活動を推進します。

- 多摩市政の基本理念をあらわした**多摩市自治基本条例**では、第4条（基本原則）第17条（情報共有）が「知の地域づくり」につながります。そこには、「**市民、市議会及び市の執行機関が、まちづくりに関する互いの情報を共有する**」という民主主義の重要な約束が掲げられています。
- 「知の地域づくり」の理想も、「図書館の基本方針」の理念も、自治基本条例につながるものであり、**図書館という社会を支える機関の使命**と考えています。



※出典：平成28年6月28日 全国リレーシンポジウム「知の地域づくりを考えるin多摩市」がありました。片山前総務大臣、姜尚中、柳田邦男、阿部裕行市長が、あるべき図書館像を語りました。鳥取県知事時代の図書館施策を元に「知の地域づくり」が議論のテーマでした。

※「知の地域づくりを考えるin多摩市」では、柳田邦男基本構想策定委員会委員長が他市の事例を上げている。  
・一緒に親子で読書の家読。  
・独立絵本館と食育料理教室。  
・テラスで緑陰読書。  
・まちかどブックコーナー。  
・市民の環境緑化ボランティア。  
・学校図書館に資料費100万円指定管理者制度の事例類末。  
・地域文化に関するコーナー。



あなたのための緑陰の読書席

※出典：平成23年4月 多摩市立図書館「多摩市図書館の基本方針・運営方針について」より

※ESD: 持続発展計画 多摩市では平成25年に、市内の小中学校が ESDの推進拠点であるユネスコスクールに登録し「2050年の大人づくり」に取り組んでいる。「ESD」は、課題を解決する力やコミュニケーション力を育み、持続発展可能な社会の担い手を育成する教育。  
出典：平成28年5月 多摩市教育委員会「多摩市読書活動振興計画」より

### (3) <5つの運営方針> というのは、

- 図書館の基本方針を具体化する施策として「5つの運営方針」を掲げています。
- 第五次多摩市総合計画基本構想は「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」をおおきく掲げています。そこでは、  
1、市民権による新しい地域社会の創造  
2、豊かなまちを次代へ継承  
3、自立的な都市経営  
が説明されていますが、「知の地域づくり」も5つの「図書館の運営方針」も、これにつながる理念・政策と考えています。

#### ① 「だれもが使える図書館」を目指します。

本館を中心にして分館及び分室を運営することにより、身近なところで気軽に利用できる図書館を目指します。また、だれもが図書館を利用できるよう、**高齢者や障がい者、多様な文化を持つ人々へのサービス**に努めます。

#### ② 「子どもの読書環境の整備」を目指します。

一人ひとりの子どもが、感性や人間性を育み、大きく変化する社会情勢にも対応できるよう、生きる力を支援する図書館を目指します。また、子どもたちが読書に関心をもち、いつでも読みたいときに興味ある本に出会えるよう、読書環境の整備に努めます。

#### ③ 「市民や地域に役立つ図書館」を目指します。

暮らしや地域の課題解決、豊かな読書を支える情報拠点として、多様な資料や情報を収集・提供し、市民や地域に役立つ図書館を目指します。また、多摩市と多摩市に關係する地域資料の活用をつうじて、**地域文化の継承と新たな創造**を支えます。

#### ④ 「しらべるを支え、つながる図書館」を目指します。

図書館資料は、身近なところで多くの人々が便利に利用できるよう、全館で共有管理しているメリットをさらに活かします。また、より高度で専門的な調査研究に関する要望に応えるため、**レファレンスサービスの充実**を図るとともに、他の図書館、大学、専門機関との連携を推進します。

#### ⑤ 「弾力的な管理・運営」を目指します。

利用者サービスのより一層の向上のため、**新しい技術や他の図書館及び異業種の発想や手法**を積極的に学び活用することにより、**弾力的かつ効果的な管理・運営**に努めます。



まちづくり、復興のためにはたらく図書館



畳の読書席、縁側に腰掛ける年配のご婦人



保育園児たちの早朝利用、ピアノがある開架室



それぞれの「本と市民の出会い」がある開架室



こころ強い司書さんがいるレファレンスデスク



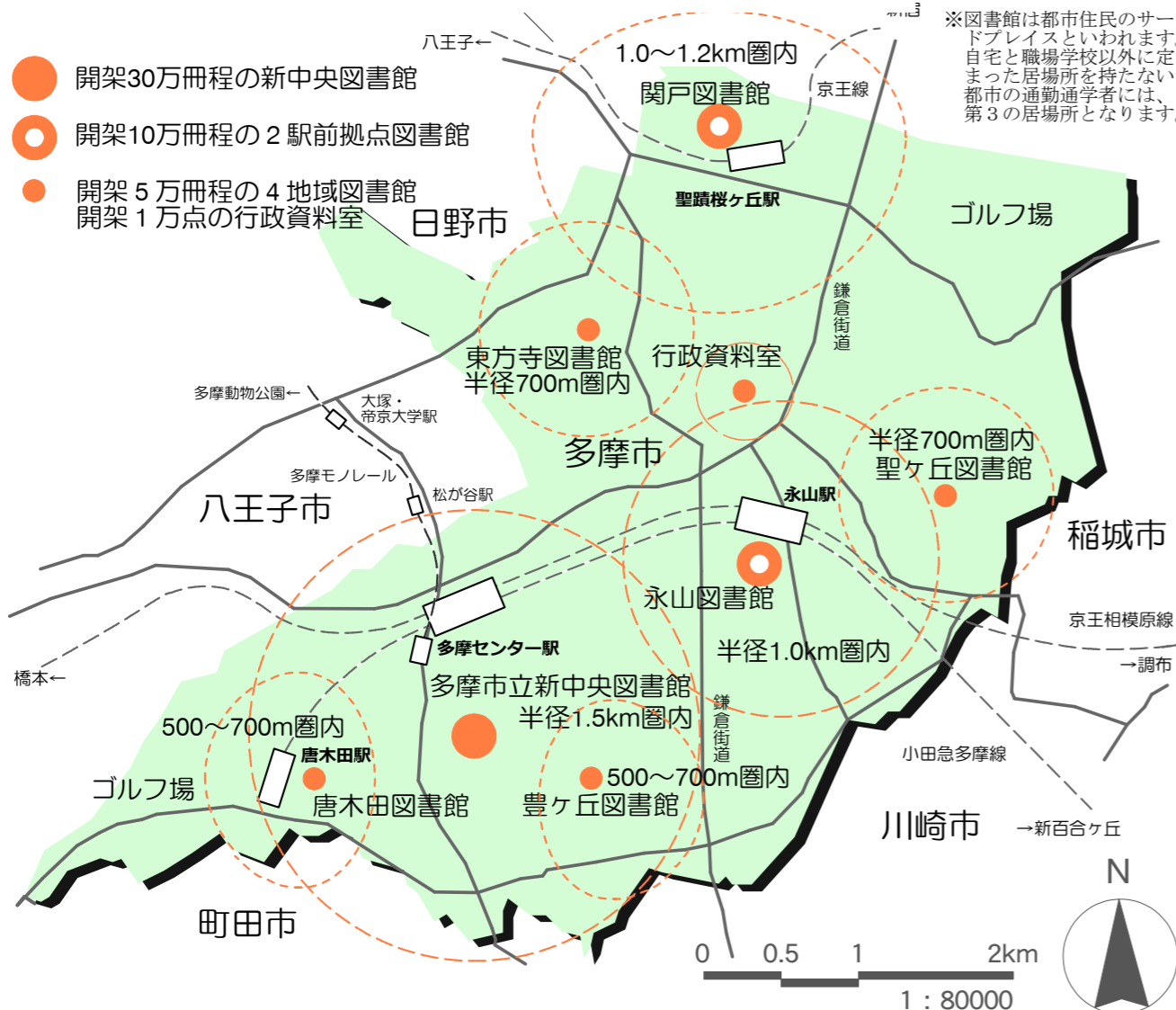
## 2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館

(1) 中央図書館、駅前図書館、地域図書館、学校図書館、アウトリーチサービスなどの奉仕の拠点をつなぐ、全市をおおう図書館サービスのネットワーク（図書館システム）の総体を、多摩市立図書館とします。

この図書館システムは「成長する有機体」と言われます。その成長を支える3要素は、人・組織、本・情報、場・環境、であって、有機体の盛衰は図書館政策のありようにかかっています。

有機的な運動体・組織には全体を関連づけ統括する中枢機能が必要です。多摩市立図書館の近年の停滞の課題は中央館の不在といわれてきた理由です。高い専門性と中枢管理機能を備えた中央図書館は、サービスと資料の奥行きと広がりをつくり出し、市域全体に対応する拠点館・地域館を改善し魅力的にしてゆきます。これは、研究と先進国先進市での実例で証明されてきたことです。

図書館サービス網が充実してゆくのです。



※図書館とは、建物のことではないということを、45年の経験の蓄積の中にある多摩市民であれば、誰でも知っていることなのです。そのことは、多摩市の図書館政策の正しさと先進性を、自己証明しています。

※図書館が有機体であるということは、心と手をかけず放置すれば、枯れて廃れるということも意味しています。

※多摩市立図書館の蔵書を名高い浦安市や調布市と大妻女子大松本研究室がカーリルを使って比較分析をしています。  
○比較して低い資料予算にもかかわらず多様な図書購入がされています。  
○それらは拠点館地域館に分散的に所属され、一図書館でアクセス出来ないことが確認された。  
○リクエストの多さと棚の充実度が類推される。  
○専門的利用に、一箇所ですべて対応される中央館の必要性が調査から類推された。  
(以上詳細資料編に掲載)

※図書館は都市住民のサードプレイスといわれます。自宅と職場学校以外に定まった居場所を持たない都市の通勤通学者には、第3の居場所となります。

(2) 全市図書館システムの中核機能と、より広く深い専門的サービスの部門・役割を、これからの多摩市立中央図書館が担います。

10ptの文字で場と活動を解説

(3) 通勤・通学や買い物などの、生活に沿った利便な場所、開館時間、日常の調べ物にこたえられる資料やサービスと場を提供する役割を、これからも2つの駅前拠点図書館が担います。

10ptの文字で場と活動を解説

(4) 地域の暮らしに沿った、資料やサービスと出会うの場を提供する役割を、歩いてゆきやすい今の場所で、4つの地域図書館が担います。

10ptの文字で場と活動を解説

(5) 学校教育機関である学校図書館は、公共図書館のパートナーとして、協力して児童・生徒へのサービスを担います。学校図書館が活動に必要な、資料構築と司書の研鑽が進むように支援します。

10ptの文字で場と活動を解説

(6) 幼稚園や保育園、老人施設、長期療養型の病院、包括支援施設などで、これまでのサービス拠点にはアクセスが難しい場合は、配本車や宅配メール方式がアウトリーチサービスを担います。

また、それぞれの図書館に近くのご希望があれば、学級招待や開館前利用など柔軟に受け入れます。



大きな資料世界がひろがる中央図書館の風景



便利な駅前にある永山図書館の開架室



地域に向き合う東寺方図書館の開架室



学校に出掛けて本箱を並べた直接貸出サービス



病院に出掛けてゆく貸出サービス



## 2-3. 多摩 N.T. 再生まちづくりに役立つ図書館

多摩市立図書館本館再構築基本構想  
第二章 多摩市民のめざす図書館

### (1) 図書館は多摩N.T.再生まちづくりの役に立ちます。

多摩市での暮らしに役立つ魅力的な図書館があることは、多摩ニュータウン再生まちづくりに、故郷への帰属感到、暮らしやすい都市環境づくりにと、多様な局面でおおきな役割をはたします。

- ① 良い図書館の存在は、居住地選択の上位の要因と言われています。魅力的な図書館が身近にある多摩市は、住みたい都市となります。人口微増の多摩市ではありますが、人口の社会減をくい止めます。
- ② 人口の構成では高齢化が進む多摩市ですから、若い所帯の移入が期待されています。団地の建て替えや住み替えでは、暮らしに活気や利便性、出会いの機会を提供する図書館が人口誘引の要素になります。
- ③ 多様な世代が交流して、さまざまな都市活動で、都市に活気が求められるとき、図書館は活動を受け入れる「ひろば」になります。情報、もの、ことに出会い、自分を確かめるサードプレイスです。
- ④ 若い世代、新しい世帯が、多摩市で暮らして、さまざまな課題の解決に困ったとき、図書館は「地域のコミュニティの相談者」になります。相談者として信頼に足る図書館員が待っています。
- ⑤ ニュータウン市民が地域に帰属感をもち、故郷を感じられることは、開発当初からの悲願でした。個人の幸いは自己実現だけではなく、属す故郷の認識で、孤独を離れ安心を手に入れることができます。図書館は、みんなの「ふるさと多摩市の記憶装置」になっています。



料理を持ち寄り図書館集会所でパーティ



開架室で、コーラスのイブニングコンサート



みんなで、絵本作家さんとお話をする



芝生の築山を客席に、図書館員が昔風の紙芝居

※図書館は都市に住む者のサードプレイスといわれます。自宅と職場学校以外に定まった居場所を持たない都市の通勤通学者にとって、第3の居場所となる意味です。

### ◎ トピックス：

#### 多摩ニュータウン再生



平成28年3月に策定した「多摩市ニュータウン再生方針」のもと、多摩ニュータウンの再活性化と持続化を図っていきます。  
本方針の取り組みを着実に進めることにより、大規模団地の更新や子育て世帯の流入等を促進し、住民の高齢化や団地等の経年劣化に対応していきます。

**多摩ニュータウン  
再生に向けた3つの個別目標**

- 人と環境に優しい都市基盤・拠点構造へ再編する
- 惹きつけられ、住み続けられるまちを実現する
- 多様な主体が協働して循環型の地域サービスを育む

#### ● 公共施設の見直しとの関連では……

現在、東京都が進めている都営多摩ニュータウン諏訪団地の建替えをはじめ、今後他の都営住宅についても更新が見込まれます。その際には、学校跡地等を建替え用地として活用したり、都営住宅との合築により、市の負担を抑えて施設の更新や整備を行うなど、公共施設の見直しと両立し、相乗効果が発揮できる方法を検討していきます。

※トピックス出典：  
多摩市政策情報誌 vol.3より

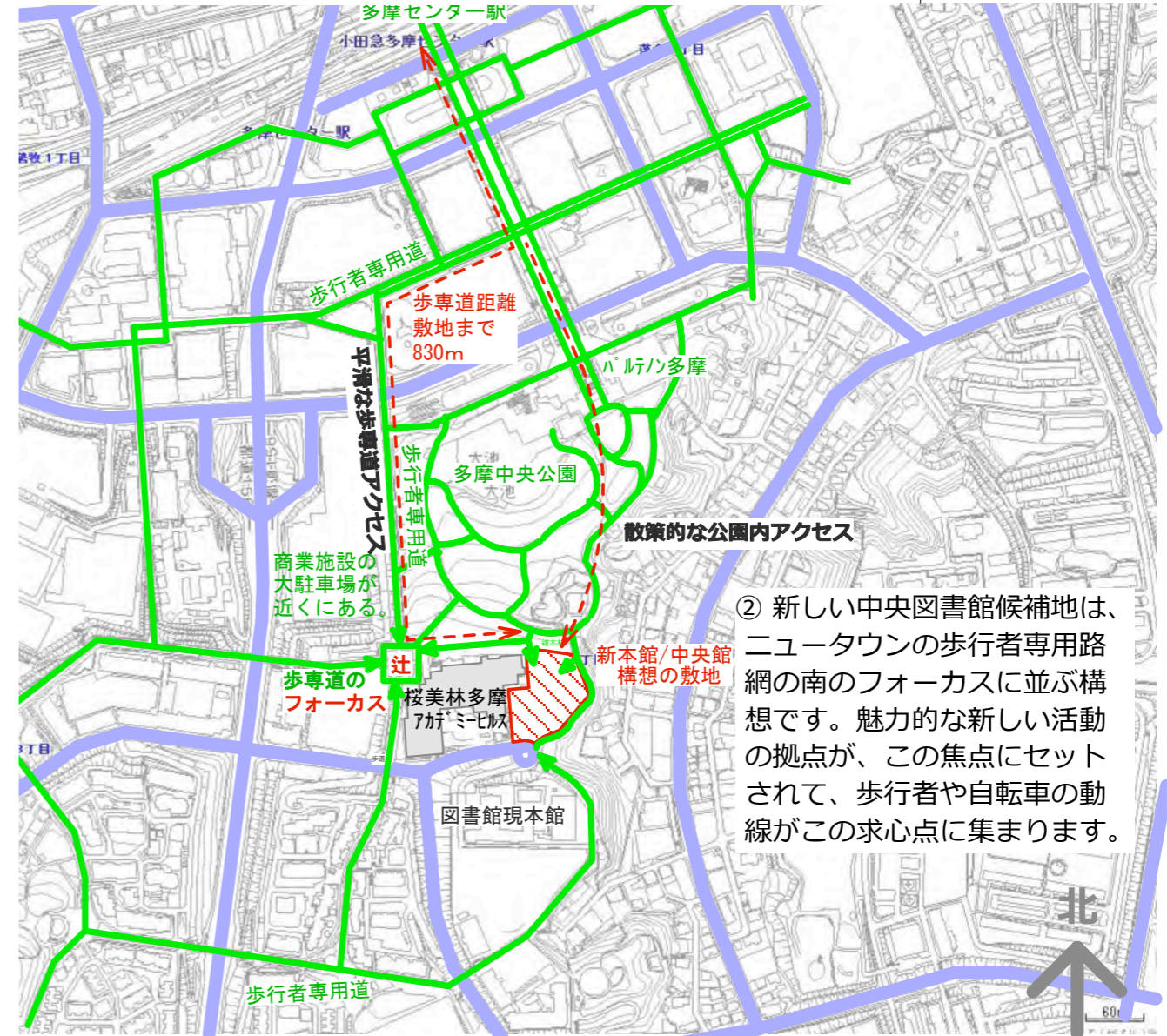
多摩市立図書館本館再構築基本構想  
第二章 多摩市民のめざす図書館

### (2) 図書館は中心市街地活性化・魅力化の役に立ちます。

- ① 新しい中央図書館は、多摩市の中心地に都市の求心力を育てます。多摩センター駅からパルテノン多摩、中央公園、新中央図書館へと続くにぎわいの大通り、魅力的なブルバール環境につながります。

※中央図書館と呼ぶか本館とするか、これも今後の検討課題です。中央館の機能を持つ本館と言われる市民もいます。

※ブルバールとはシンボルとなる大通りのこと。



- ② 新しい中央図書館候補地は、ニュータウンの歩行者専用路網の南のフォーカスに並ぶ構想です。魅力的な新しい活動の拠点が、この焦点にセットされて、歩行者や自転車の動線がこの求心点に集まります。

### ◎ トピックス：

#### 健幸都市（スマートウェルネスシティ）



多摩市は、だれもが健康で、生きがいを感じ、安全・安心に暮らせるまち、みんなが笑顔で幸せを実感できるまち、健幸都市を目指しています。

健幸都市の実現に向けて、高齢者も障がい者も住み慣れた地域で生活を続けられるように、地域ぐるみで支える「多摩市版地域包括ケアシステム」の構築や、「歩くこと」、「外出すること」が楽しくなるような都市環境の整備、市民のつながりを育む取り組み等を進めていきます。

平成28年度は、市民ワークショップや外部有識者会議等にて、市が目指す健幸都市の姿やそれに向けた取り組みを検討していきます。皆さんの地域での活動が、明日の健幸都市につながります。一緒に多摩市を健幸なまちにしていきたいと思います！

#### ● 公共施設の見直しとの関連では……

公共施設の老朽化や厳しい財政状況の中でも、今ある施設の機能を地域の世代構成や新しいニーズに対応したものへ転換することや、ハード（施設）からソフト（事業）へ転換すること等により、将来にわたり持続可能な健幸都市を実現していきます。



※トピックス出典：  
多摩市政策情報誌 vol.3より



## 2-4. あたらしい多摩市立図書館への提言

### (1) あたらしい多摩市立図書館への提言

多摩市の図書館全体運営のあり方、また個別に、新中央図書館、駅前拠点図書館、地域図書館、それぞれの運営の在り方について、数々の提言を整理しておきます。

このたびの基本構想では「あたらしい多摩市立図書館への提言」を策定委員会や行政・市民グループヒアリングで広範に集めることができました。それら提言をチャート形式で右頁に整理してあります。

### (2) 全体の図書館運営に関わる3要素について、また

#### ○資料・情報の構築と配置再編と管理について：

- ・本館中央館には、一箇所でもどんな資料にもつながる蔵書、専門的で奥行きのある蔵書、調査や郷土や行政資料の充実が一般的です。
- ・分館地域館には、複本としての子どもや成人むきの基本的図書揃え、奥行きの資料は本館から取り寄せます。新聞や雑誌などのニュース情報はインターネット端末とともに備えたいところです。

#### ○職員・組織の構成と配置再編と管理について：

- ・本館中央館ができて、現職の職員数を大きく増員はできません。
- ・本館中央館には、企画運営、蔵書構築、地域奉仕、直接サービスなど専門的で多方面の業務に、合理的な職員編成を行います。
- ・分館地域館には、貸出し、子どもを大切にする奉仕、相談業務、地域社会連携があり、少人数で全領域に対応する必要があります。正職専門職で専門性総合性を備えた常勤館長が期待されるでしょう。

#### ○施設・環境の配置と役割再編と管理について：

- ・本館中央館の施設環境に求められることは3章で述べています。
- ・分館の地域館や駅前拠点館についても、本館整備に合わせて、順次見直しや変更が必要になるかもしれません。本棚の配置を集約してサービスデスクに近接させ中心区域として、読書席やブラウジングなど人の居場所を拡大し、滞在型に充実させてゆきたいところです。

#### ○経営バランスの企画調整と、投資対行政効果の検証について：

- ・各館の休館日（曜日）や開館時間をずらすなどして、利用者の不便が大きくなるようにしつつ、運用経費を圧縮できるような改革を工夫し、資料費の拡大分の捻出や直営の持続を図りたいものです。
- ・先進他市で見られる毎年の図書館歳費と行政効果（市民サービス）の検証と情報開示、翌年度への重点事業項目への反映も必要です。

### (3) 図書館協議会など専門的な諮問機関の役割について

- ・図書館協議会は、館長が意見を求めて図書館運営について答申を参考にする重要な機関です。専門性、地域性、社会要望、学校連携、など多様な視点が反映できるように編成の充実が市民から望まれています。
- ・協議会委員には学校長代表もいます。市域全体の図書館活動の一部として学校図書館にも連携や支援の意見を述べますが、学校図書館自体の充実策は、教育委員会や教育担当課の領域です。市立図書館が学校図書館を連動させた他市の事例研究も、今後は必要になるでしょう。

### (4) それぞれの図書館の利用者懇談会や友の会など 市民グループとの協働の試み

- ・多摩市の図書館には、子どもへのお話や障がい者支援に市民ボランティア活動はありますが、読書会や図書館友の会など市民応援団が本館地域館ともに、先進図書館のように生まれませんでした。
- ・「図書館フレンズ、図書館には友人が必要です。」という、米国は宣伝文がありますが、多摩市の図書館にも友人が期待されます。



おおきな開架室を魅力的にたもつために

## 第三章 多摩市民を支える中央図書館

### 3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

### 3-2. 中心地区につながる開かれた中央図書館

### 3-3. 基本的図書館サービスと新しいサービス

### 3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを



お話しという図書館との出会い

※各頁の文章を補完する挿入写真は、活動のイメージをお伝えするための各地の図書館の風景です。



## 2-4. あたらしい多摩市立図書館への提言

### (1) あたらしい多摩市立図書館への提言

○「知の地域づくり」「知的地域再生」  
図書館計画とまちづくりは重要なテーマ

○基本計画では「もののデザイン」へ。  
基本構想では「ことのデザイン」から。

「提言チャート」	資料世界 〈本・情報〉	図書館員 〈人・組織〉	図書館施設 〈場・環境〉	市民利用者 〈活動・協働〉	マネジメント 〈運営〉
<p><b>図書館本館</b> 〈中央館〉</p> <p>・来館者への直接サービス</p> <p>・非来館者へのサービス (アウトリーチサービス) (情報系ICTサービス)</p> <p>・資料群構築センター (テクニカルサービス)</p> <p>・政策／企画／総務</p>	<p>カルタ01/本・現本館</p> <p>○広い開架スペース(たぐさんの開架資料) ○見つけやすく、課題解決につながる資料。 ○世界を体感できる豊かで深みのあるコレクション。 ○児童書を幅広く収集。 ○開架室にある本の出版年、古い物が多い。 ○開架室が広くなると魅力が維持できない。 ○資料費が継続的にある程度必要。 ○将来は電子的資料やデータベースなどが増える。 ○PCネットワーク、情報媒体が今後重要。 ○広い閲覧スペースとWiFi環境。 ○有料データベース提供、利用者端末の配置。 ○ESDの観点を図書館にも。 学習する上で、学校にある資料では賅えない。 ○予約受付件数が多い。 ○必要な資料が手に取れば予約をけなくて良い。 ○動き盛りの世代に需要のある専門性のある資料は中央館に集まっているとより効率的。 ○館ごとの蔵書規模が小さく専門的な資料を置きにくい。30万冊規模になると網羅的に置ける。 ○仕事・資格・働く気持ち応援の資料 ○図書館が市民の問題を支援 いじめ、離婚、同性婚など様々な問題に対して図書館がブックリストを作成。 ○行政資料は、中央館で充実。 ○資料の所在を固定していない。 ○館籍を付けて再配置が必要か。 ○資料が返却された図書館に配架されるしくみ、全体の蔵書バランスと資料管理の方向性を検討。 ○地域館からも購入のリクエストは上がるが、本館で選書・見計らいをしている。 ○取書方針 多摩市がどのような基準で蔵書を集めてゆか議論しておいたほうが良い。 ○ベストセラーを早く読みたいという要望と厚みのある蔵書構成になるという論点。 ○行政資料のPR。</p>	<p>カルタ02/人・現本館</p> <p>○課題解決型サービス・ビジネス支援 新しい話ではない、市民の自己実現への支援。 ○動き盛りの人への高度なレファレンスサービス。 ○レファレンス機能の強化や動き盛りの世代への情報提供の強化。図書館は「ワンストップ窓口」 ○起業、商品開発、就職活動情報、就労、市民一人に図書館組織が応えていく。 ○児童サービス：読み聞かせ、おはなし会 ○ティーンズサービス ○地域向けサービス ○多文化サービス：資料収集を始めたい。 ○高齢者向けサービス：思い出語り回想法 ○SNSなどでの発信も必要。図書館でイベントをやっても知られていない。若者に向けて発信。 ○就業支援で、地元へ根付いた仕事を紹介。若者の定住につながるのでは。 ○学校図書館支援は本館で行っている。 ○行政支援 市役所を支援するといことも重要。市役所の課題は市民の持っている課題ともオーバーラップする。行政マンが効率よく仕事をすれば、市民の生活も良くなる。 ○経済の活性化や市民の健康は、行政の課題。 ○行政プランチ、行政情報の提供や手続きの支援などもできれば良い。 ○介護や健康相談、社会的なサービスについて、なんでも聞ける窓口は、図書館では難しい。 ○課題解決支援ができる「司書の特別養成」 ○資料を活かすには司書の動きが重要。異動のルールも含めて、職員を育てる工夫を考えたい。 ○他自治体はどんなサービスをしているか、研究が必要。将来的なことに考えを進めるべき。</p>	<p>カルタ03/場・現本館</p> <p>○ラーニングコモンズのような市民が交流できる、自由に声を出して議論ができたりするところ。 ○画一的に静かにするのではなく「利用目的によって音環境デザインを変える」 ○メイカースペース：編集、3Dプリンターがあり支える図書館員がいる。開架室にあるとよい。 ○子ども未来会議や中学生サミットを図書館で。 ○未来志向の学習の場。調べる・発表する、会議。 ○20代の若者を誘引する集まりやすい環境づくり。 ○カフェやたまり場、中高生には自習スペースがあると活用される。 ○常設で子ども用の文化財展示スペース ○ふるさとのことを知ることができるコーナー ○ベビーカー置き場、おむつ替え、授乳コーナー 子連れのみをしっかりと迎えたい。 ○おはなしの部屋：読み聞かせの環境。 ○賑やかな子ども開架室が共存できる配置計画を。 ○多摩市で出版しているものは販売したい。中央館で販売コーナーが作れるとよい。 ○図書館を居場所として活用。一人であることができる、邪険に扱われない。人との出会いもある。 ○図書館の利用を情報収集だけでは捉えずに時間をゆっくり過ごすことを提案してもよい。 ○マルチカルチャーを目指すべき。20年後、30年後を見据えた図書館やバルテノン多摩であってほしい。 ○図書館本館は中央公園を大切にしたい配置計画になるように期待したい。 ○公園と図書館が一体になる計画、アプローチで「緑陰読書」ができるようにしたい。 ○歩いて図書館に来る人は公園の道を使ってもらえるように(高低差昇降を)整備してはどうか。 ○自然観察会を図書館で行うこともできるのでは。 ○公園側のアプローチは多様な可能性を秘めている。 ○環境に配慮した「グリーンライブラリー」をめざす。 ○車でのアプローチは大切。(弱者のための車) ○中央館敷地は高齢者にとっては駅から遠く思う。アクセスの補助については大きな課題がある。 ○気軽に魅力ある中央図書館に行けるように、巡回のマイクロバスが運行すると良い。</p>	<p>カルタ04/活動・現本館</p> <p>○図書館では障がい者サービスや児童サービスでボランティアが協力。 ○サービスの受け手となる利用者のヒアリングとボランティアをグループのヒアリングを行う。(音訳・点訳を行っているボランティア団体など) ○市民と図書館が直接意見交換できるように。市民グループは、今後も直営維持を希望している。 ○高齢化率が高い地域の流動化。 ○図書館が多摩への移住を誘うセールスポイントになるとよい。 ○年齢を重ねたひとたち、障がい者、子どももいて賑わう図書館であってほしい。声を出してもよい、気軽に利用できるような施設。 ○図書館協議会の活性化 定数を元に戻して、若い方や障がい者グループの枠を設けたい。協議会も増回するよう考えたい。</p>	<p>○できるだけ効率化。 ICタグの導入で自動貸出や返却、書庫の出納も早くなると思う。 ○個人貸出冊数は全国平均の倍の実績。サービスの成果としては成功。 ○コストを下げる工夫をするか、他のサービスの充実を目指すか。 ○リクエスト件数が多い。どう維持していくか。 ○組織そのものの見直しが必要。 ○常勤職員における司書割合は52.3%。嘱託職員の司書割合は100%。 ○多摩市の司書割合は全国では平均的 ○専門的な正規職員の採用や職員をどう動かしていくか検討が必要。 ○図書館の自己評価・外部評価の実施と公開を行うべき。</p>
<p><b>図書館分館</b> 〈拠点館〉 〈地域館〉</p> <p>・関戸 ・永山</p> <p>・東寺方・豊ヶ丘 ・聖ヶ丘・唐木田</p>	<p>カルタ05/本・拠点館 カルタ09/本・地域館</p> <p>○乳幼児を含めた児童へのサービスを手厚く。 ○高齢者に必要なサービス、医療や健康の情報。 ○新聞雑誌などの更新されるコンテンツを充実。 ○通って楽しいのはベストセラーがたぐさん並んでいるような開架室だけではないだろう。 ○資料は司書が考えて揃えるのが良い。 ○調布市や町田市の地域館の蔵書構成 ○地域館の蔵書構成は地域館の職員が責任を</p>	<p>カルタ06/人・拠点館 カルタ10/人・地域館</p> <p>○障がい者サービスは中央館に移すのか、永山か。利用者の多いところで行うか検討したい。 ○視覚・精神など様々な障がい、個別にサービスをしなければならぬ。 ○動き盛りの世代の利用に答えるには難しい。 ○サービスの質とレベルと規模が共通の問題。</p>	<p>カルタ07/場・拠点館 カルタ11/場・地域館</p> <p>○企画展示は大切。 ○おはなし室がほしい。 ○おはなしコーナーの利用と一般利用者との調整。 ○広くはないのでしゃく声と調べ物の利用者がパッシング ○喫茶コーナー、ほっとする休憩コーナーはよい。 ○気軽に足を運べる空間。身構えずに入りやすい図書館。 ○高齢化社会、健康などの情報が得られる、気軽に身近に杖をついて行くことができる場所。 ○子どもが利用しやすい。 ○乳幼児期に絵本の読み聞かせができるスペース。 ○地域の居場所づくりを図書館が責を負うことか、地域コミセンが提供すれば良いのでは。</p>	<p>カルタ08/活動・拠点館 カルタ12/活動・地域館</p> <p>○基礎調査や諮問答申どれも中央図書館の大切な仕事に、地域館を支援するとある。 ○反対運動もあって地域館が残ることになったが基本構想には、変遷がわかるような記述が必要。 ○活動室であかちゃんおはなし会をやっている。安全な、おはなしスペースがあれば。</p>	<p>○地域館・拠点館 本館と分館でよいのではないか。 ○拠点館は駅前であり、他市の分館と比べても規模が大きい。 開館時間も長く、蔵書規模も大きい。ターミナルにあるので利用のされ方は違う。地域館と分けて考える必要はあるか。 ○大きな本館と小さな分館という運営もよいか検討。 ○唐木田図書館の委託運営。 市民からは直営化の検討を要望。 ○人口構成・ニーズの変化。 福祉行政に職員が必要になっていく。 ○正規職員から非常勤一般職に業務移行を工夫しているが人員配置厳しい。 ○直営で専門職がいて、どこの館でも同じようなサービスを受けたい。 ○地域の貸出ニーズに答えることも重視。</p>
<p><b>全域奉仕</b> <b>図書館システム</b> 〈ネットワーク〉</p> <p>・行政資料室 ・幼稚園保育園 ・(学校図書館支援) ・病院/老健/包括支援施設</p>	<p>カルタ13/本・ネットワーク</p> <p>○病院図書室との連携・配本サービス 患者が前向きになる読書を届ける。 ○市民活動資料、新本館にも置いてほしい。 ○学校図書館から市立図書館の資料の検索ができる。</p>	<p>カルタ14/人・ネットワーク</p> <p>○学校図書館は、全校司書を配置している。 ○学校図書館に週3回の連絡便運行。互いに資料費はきびしいが、オンライン環境等で支えている。 ○行政資料室に資料は置いているが、活用されるよう工夫ができていない。</p>	<p>カルタ15/場・ネットワーク</p> <p>○地域館の老朽化、リニューアルの必要性。 ○大規模改修の時期と改修の検討 ○地域包括支援センター複合案。地域の人と議論を。 ○現在のサービスでの地区館とすると規模が小さい。</p>	<p>カルタ16/活動・ネットワーク</p> <p>○学校で出前おはなし会。ボランティアが活躍。</p>	<p>○市の政策や将来予測も基本構想に反映。少ない予算をどう活用するか。 ○10年20年先に高齢化したところで世代交代が進み人口が増えるか、街の状況の見通しが大切。</p>
	資料世界 〈世界表現性・地域性〉	図書館員 〈専門性〉	図書館施設 〈ひろば性〉	市民利用者 〈市民性〉	レジビリティ&サスティナビリティ 〈持続可能性〉